

# The way forward

トップインタビュー

## 厳しい市場環境の中で、 次の飛躍への力を蓄積。

当社の第58期業績は、中国の景気が減速し始めたことにより大きく影響を受けました。中国自体での自動車生産の伸び悩みにとどまらず東南アジアにおける景気鈍化の原因ともなったからです。一方で、原油・ナフサ価格の下落は、原材料調達コストの低下により上期は利益を享受できましたが、下期については、当社製品に対する値下げ圧力が強くなる中、販売単価を下げざるを得ず、結果として計画を達成できませんでした。この結果は真摯に受け止めていかなければと考えています。しかし、向かい風の中において健闘した事業も見られました。具体的には、ここ数年伸ばしてきたホットメルト接着剤部門において、市場ニーズに応える機能・性能を強化したことや、切削油剤において特殊分野に向けての金属加工油の開発・販売を拡大してきたことです。

MORESCOは研究開発型企業として、このような高付加価値への挑戦を全社的に行ってまいります。また今期は次の飛躍に向けた足場作りの年でもありました。ホットメルト接着剤の製造・販売拠点として設立した天津の工場は昨年本格稼働がはじまったばかりですし、同様に本社第2研究棟もようやく始動しはじめたところです。私たちはこの充実した環境に、数年来計画してきた新しい事業を据え、人事面からも活性化を図りながら、次のMORESCOを力強く実現していきます。

株式会社 **MORESCO**

代表取締役社長 赤田 民生





完成した第2研究棟から、新事業を推進。  
60周年の節目を視野に入れて、  
より強い組織づくりにも注力します。

## 新規事業

デバイス材料技術を束ねて事業化。  
医療関連分野も視野に。

次世代の発光体、有機ELの製品化に必要な技術として、デバイス内への水分の浸入を防ぐ「封止剤」の開発を数年来進めてきましたが、今後はその性能を速やかに検査できる「水分透過率測定装置」と精度の高い試験に必要な「標準試料」などをセットにして事業化を推進します。医療機器や有機薄膜太陽電池などの産業分野にも、この事業をきっかけに参入していくことを目指しています。



## 次世代組織

MORESCOの10年後を設計していく  
選抜メンバーによるチームを結成。

未来のMORESCOを形作っていくのは、いまの経営陣だけではありません。次代の中心となっていくリーダーたちを集め、長期経営計画を描いていくプロジェクトを2016年よりスタートしました。2018年に当社は60周年を迎えますが、社員全員の声を集約し、次の10年に向けて夢のある長期経営計画を策定したいと考えています。

## シェア拡大

特殊潤滑油分野を充実。  
徐々に市場シェアを拡大中。

近年のMORESCOを語る上で欠かせないのが金属加工関連分野の充実です。とくに元気があるのが切削油で、チタン、インコネルなど難易度の高い金属加工を行う航空機関連分野のお客様において存在感を高めています。熱間鍛造潤滑剤は世界で今後とも需要拡大が期待されることから、新製品開発により、世界でのシェアを拡大していくことを目指しています。



## 海外強化

経営体制にもテコ入れを行い、  
中国とアメリカでのビジネスを加速。

中国の成長力が減速したこともあり、今期は海外で伸びしきれなかった点が反省の一つとして挙げられます。当社は日本・中国・北米の3地域を軸足に、来期は中国やアメリカでのビジネスをさらに活性化させていきます。とくに上海と無錫の営業を統合した新体制を軌道に乗せるとともに、研究開発を強化することによって市場の変化に素早く対応し、MORESCO製品とサービスの良さを市場に浸透させていきたいと考えています。





# イノベーションを起こしていく シンボルとしての第2研究棟が始動。

5階建てで1階部分は駐車場。2階は200人収容の大会議室とコミュニケーションスペース。3・4階は研究スペースで、5階は20人を迎えられる応接室を備えている。



第2研究棟の2・3・4階の通路には、経営トップや各部門が意識する挑戦の言葉が掲示されている。



## 新しい舞台を設けることで、MORESCOは次のステージへ。

神戸に本社を移転してから15年、MORESCOは極めて順調に成長を遂げてきましたが、その延長線をさらに越える成長を実現していくために、新たな研究開発の舞台であり、またチャレンジの象徴ともなる第2研究棟を設立しました。2015年10月に完成した第2研究棟では現在、次のMORESCOの核となっていくさまざまな研究が進められています。

## 厳しくなる市場の要求に挑み、期待を超えていく製品開発を。

例えば、ホットメルト接着剤においては、紙おむつのメーカーごとにニーズが異なるほか、製品に対する要求はますます厳しくなっているため、これらに応えられる製品開発が急務となっています。第2研究棟では、これまで使ってきた材料を改質、変性してできた高分子材料をベースに新製品の開発に取り組んでいます。また研究開発部では粉体離型剤や透過性、滑水性に優れた透明コート剤の研究も積極的に推進しています。いずれも早期の実用化に向けた取り組みを行っています。

## MORESCO 年間トピックス

11月 組織

中国営業拠点統合

中国の子会社である莫莱斯柯花野庄铸塗料(上海)有限公司の営業部門を無錫松村貿易有限公司の営業部門に統合し、社名を無錫莫莱斯柯貿易有限公司に変更。営業の効率化を図りました。



11月 組織

従業員意識調査を実施

社員一人ひとりがより意欲をもって働くことができるように従業員意識調査を実施。76%の社員が「働きがいがある」と回答。今回の結果を生かしてさらに改善を進めていきます。





## 人材強化により、国内外の新市場開拓を進め、 オンリーワン製品をさらに強いブランドに!



自動車向け高温用グリース基油として使用されている合成潤滑油は、開発から35年以上たった今でもオンリーワン製品として不動の地位を維持しています。今後はさらに市場を開拓し、国内外でのポジションを一層高めていくことを目指します。具体的には、自動車・製パン以外の用途開発、グローバル展開、新たな合成油の開発などに注力していきます。



高温用合成潤滑油のモレスコハイループは、オンリーワン製品として多くの自動車に使われています。

## 世界で輝くテクノロジー



## 航空機に用いられる特殊な部品の加工現場で MORESCOならではの価値を発揮!

自動車部品工場などにおいて、金属を削り取る旋盤、マシニングセンター、研削盤などの工作機械に不可欠な「切削油」。私たちが製造する切削油剤は鉄、アルミなど、それぞれの金属特性に合わせた品質を実現し、工作工具の長寿命化に貢献するのが特色です。最近ではとくに航空部品の加工用に、防錆性、抗菌性などの性能を向上させた高付加価値製品を開発し、新たな顧客の獲得に乗り出しています。この分野における当社のシェアは国内外共にまだ低いため、今後の新規開拓には大きな余地が見込めます。海外では、ダイカストメーカーに対して切削油剤の販売を強化していきます。

1月 広報

### AUTOMOTIVE WORLD2016出展

1月13日から15日まで東京ビッグサイトで開催されたAUTO-MOTIVE WORLD2016展示会にホットメルト事業部、デバイス材料開発部が出展。約600名の来場者がありました。



2月 広報

### 株主様向け第2研究棟見学会

株主の皆様にもMORESCOへのご理解を深めていただくことを目的として、第2研究棟見学会を開催。当日は研究棟と新設された第2研究棟の各フロアをご見学いただきました。



当連結会計年度の売上高は26,266百万円(前期比2.1%減)となり、経常利益は2,378百万円(前期比14.0%減)、当期純利益は1,526百万円(前期比6.9%減)となりました。

### 売上高と営業利益率



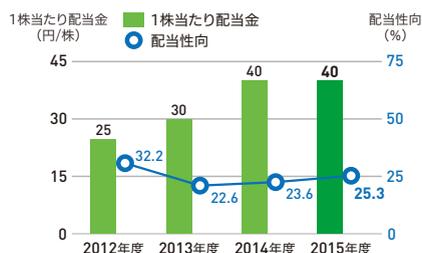
### 経常利益と経常利益率



### 海外売上高と海外売上高比率



### 1株当たり配当金と配当性向



### 自己資本と自己資本純利益率(ROE)

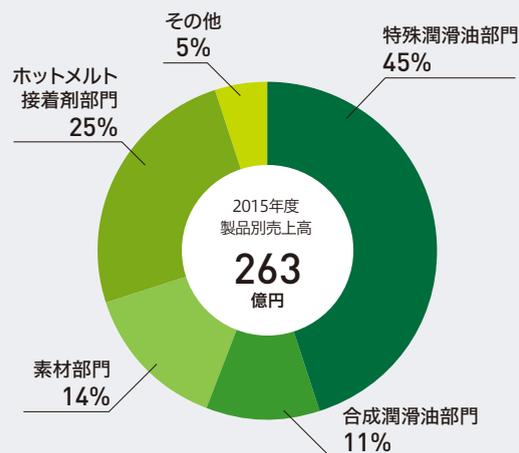


## セグメント情報



ホットメルト接着剤が好調に推移するが全体では伸び悩み。

中国経済の減速を背景に世界的に景気低迷が鮮明となる中、米国を除き自動車生産が低調に推移するなど、経済環境は厳しい状況にありました。景気に左右されにくいホットメルト接着剤が堅調な売上高を維持したものの、その他の分野では需要減少等により売上高が伸び悩みました。



### 特殊潤滑油

自動車生産の低迷により主力のダイカスト用油剤の売上高が落ち込み、全体としては前期を下回る結果に。

### 合成潤滑油

高温用合成潤滑油が伸び悩んだものの、ハードディスク表面潤滑剤の新製品切り替えにより、売上高は増加。

### 素材

流動パラフィンが数量の減少と原材料価格下落に伴う販売単価低下により売上高は減少。

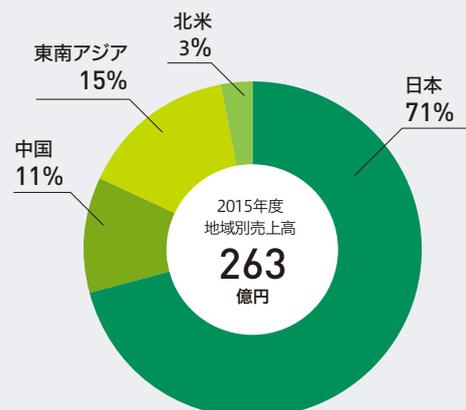
### ホットメルト接着剤

主力である衛生材用途が堅調に推移する一方で、粘着用途においては新規顧客の獲得が進み、売上高は増加。



アジアの自動車関連が全体的に鈍化。インドネシアの衛生材関連は好調。

日本では国内経済の低迷と自動車、鉄鋼の生産低迷により、ホットメルト接着剤と合成潤滑油を除いて売上高が減少しました。中国では自動車生産台数の伸び率が鈍化し、主力のダイカスト用油剤の売上高が伸び悩んだものの、全体では前期を上回りました。東南アジアでも景気減速に影響を受けましたが、インドネシアのホットメルト接着剤が牽引し、売上高は前期を上回りました。北米では全体的に堅調に推移し、売上高を伸ばしています。



## 会社概要・株主情報 (平成28年2月29日現在)

### ■会社概要

商号 株式会社MORESCO  
設立 1958年10月27日  
資本金 2,090,578,200円  
従業員数 292名

### ■本社および事業所

本社・研究センター 神戸市中央区港島南町  
5丁目5-3  
電話078-303-9010(代表)  
支店 東京支店/大阪支店  
営業所 名古屋営業所  
工場 千葉工場/赤穂工場

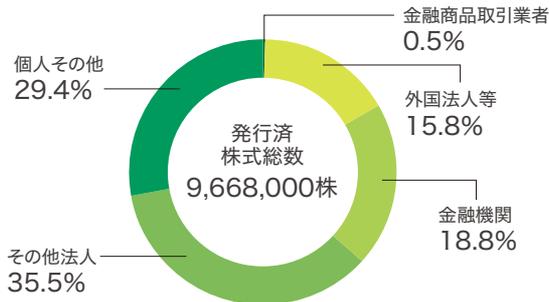
### ■役員構成

代表取締役社長 執行役員 赤田 民生  
取締役 専務執行役員 竹内 隆  
取締役 常務執行役員 山地 一  
取締役 常務執行役員 両角 元寿  
取締役 相談役 中野 正徳  
取締役 米田 徳夫  
取締役 浅野 応孝  
取締役 リ・ジュ・ジュディ・リン  
常勤監査役 作田 真一  
監査役 富野 武  
監査役 小沢 史比古  
監査役 長谷川 克博

### ■株式の状況

発行可能株式総数……20,000,000株  
発行済株式総数……9,668,000株  
株主数……7,468名

### ■株式所有者別分布状況



### ■大株主

株主名	持株数	株主比率(%)
松村石油(株)	1,067,000	11.0%
BBH FOR MATTHEWS JAPAN FUND	774,500	8.0%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	711,800	7.4%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE-HCR00	606,000	6.3%
コスモ石油LPブリカンツ(株)	503,000	5.2%
日本曹達(株)	365,000	3.8%
双日(株)	327,000	3.4%
三菱商事(株)	327,000	3.4%
MORESCO従業員持株会	323,200	3.3%
(株)みずほ銀行	250,000	2.6%
(株)三菱東京UFJ銀行	250,000	2.6%

持株比率は自己株式(610株)を控除して計算しております。

## 株主メモ

### ■事業年度

3月1日～翌年2月末日

### ■期末配当金受領株主確定日

2月末日

### ■中間配当金受領株主確定日

(中間配当を行う場合)

8月31日

### ■定時株主総会

毎年5月

### ■株主名簿管理人および

特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

### ■同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社

大阪証券代行部

〒541-8502 大阪市中央区伏見町

三丁目6番3号

TEL:0120-094-777(通話料無料)

### ■上場証券取引所

東京証券取引所

## 公告の方法

電子公告により行う

公告記載URL

<http://www.moresco.co.jp/>

(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に公告いたします。)

### 【ご注意】

◎株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。

株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

◎特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。

◎未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。